

4 教育拠点

玉名教育拠点

1. 活動概要

玉名教育拠点は2015年4月、公立玉名中央病院に地域医療の支援及び地域医療の実践教育を行うべく開設されました。2名の常駐寄附講座教員でのスタートでしたが、現在、指導医2名、後期研修の専攻医4名に加え、さらに地域医療・総合診療実践学寄附講座から人的サポートもあり、病院の診療支援および実践的な教育の提供という目標が実現されつつあります。

2019年初期臨床研修プログラム研修医（基幹型1年次：3名、2年次：3名、協力型は合計8名のは特別臨場実習（クリニカル・クラークシップ）の「総合診療科」の受け入れを行なっております。地域医療・総合診療実践学寄附講座スタッフは、医学生、初期研修医、専攻医とともに総合診療科として救急外来、一般外来、入院、在宅医療にとり組み、地域の医療を支援しつつ、実践的な教育を行なっています。

今後、地域医療に貢献するため、地域での総合診療科の認知度、研修の場としての教育拠点の認知度をさらに上げ、地域での卒前、卒後の医学教育を継続し、充実させていかねばならないと考えています。

右の活動実績のごとく、院内外のレクチャー、カンファレンスも整備が進んでおり、玉名ならではの「学ぶ機会」、特に地域医療職の皆さんに限らず、地域住民の皆様との交流を通じた研修の機会もさらに増えています。より充実した教育環境づくりを進めて行きたいと思えます。

初期研修・専攻医の活動は医療のネットワークと地域住民のネットワークをつなぐ役割を果たしつつあり、今後、地域づくり、地域医療研修に新しい方策をもたらすことが期待されます。

2. 年間活動実績

月	日	行事
4	1	オリエンテーション
	13	レジデントデイ
5	17-18	JPCA学会 参加
	24	有明緩和ネットワーク研究会
6	14	玉名在宅ネットワーク会議
7	1	玉名救急医療研究会
8	7	有明緩和ネットワーク研究会
	9	講演会「心不全緩和のエッセンス」
	16	講演会「お・と・なの臨床倫理」
	19	有明感染症移送訓練
	21-22	有明消防 救急趣味レーション研修
	27	公立玉名中央病院 CPC
9	6	玉名塾 Dr. Ramar 「Sepsis～ Management Update 2019」
	28	有明地区研修医合同カンファレンス
10	7	玉名救急医療研究会
	13	E-レジナビ 参加
11	15	有明緩和ネットワーク研究会
1	6	玉名救急医療研究会
	31	これからの玉名の地域医療を考える会
2	23	横島町いちごマラソン救護
	23-28	基幹型研修医 タイ 研修(中止)
3	15	玉名薬剤師会 市民公開講座 参加
	19	初期臨床研修 修了式



玉名救急医療研究会



これからの玉名地域医療をみんなで考える会

3. 活動報告

I 教育活動

◆ 特別臨床実習

熊本大学医学部の1ターム3週間の特別臨床実習（総合診療科 クリニカル・クラークシップ）を玉名教育拠点で受け入れています。

本年度も各学生に入院患者の担当を割り当て、それぞれが日常診療業務に医療スタッフの一員として診療に参加し、診療の中から自らのクリニカルクエスチョンを見出し、これに基づいた論文検索から担当患者への適応までを期間内で実践することとしています。

第3週に学習成果の発表を抄読会形式で実施し、評価の場としました。その結果、3週間を通して患者の診療を経験すると同時に、論文検索を通して疾患についての学習を深めることができ、充実した実習であったとの学生からの評価を得ることができました。

この学習手法を実行する為には、指導医、専攻医、研修医、医学生の「屋根瓦式」の指導・教育体制が不可欠です。来る2020年度も、更に多くの医学生の参加するよう地域での医学教育の質の向上に努めたいと思います。



朝回診風景～屋根瓦式指導体制



リエゾンカンファレンス

玉名教育拠点における週間スケジュール

1-2週					
	月	火	水	木	金
7:30			プライマリケアレクチャー		
8:00	救急合同カンファ	モーニングレクチャー		プレゼン研修	
8:30	医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診				
9:00	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修
13:30	外来レビュー	外来レビュー	訪問診療(安成) or 緩和ケア回診(不定期)	外来レビュー/各種講義	外来レビュー
15:00	病棟研修	リエゾンカンファ	緩和ケア回診(不定期) or 病棟研修	病棟研修	病棟研修
16:30	新患カンファレンス	病棟研修			皮膚科合同カンファ
17:00	振り返り				週間振り返り
17:30	自己研修				

3週					
	月	火	水	木	金
7:30			プライマリケアレクチャー		
8:00	救急合同カンファ	モーニングレクチャー		プレゼン研修	
8:30	医局ミーティング/総合診療科入院患者棟回診				
9:00	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修	外来研修 or 訪問看護	外来研修
13:30	外来レビュー	外来レビュー	訪問診療(安成) or 緩和ケア回診(不定期)	外来レビュー/各種講義	外来レビュー
15:00	病棟研修	リエゾンカンファ	緩和ケア回診(不定期) or 病棟研修	病棟研修	病棟研修
16:30	新患カンファレンス	病棟研修		TMEC	皮膚科合同カンファ
17:00	振り返り				週間振り返り
17:30	自己研修				

プライマリケアレクチャー 熊本県地域医療支援機構で受講可能なオンラインレクチャー

モーニングレクチャー 臨床のみならず、地域医療に関するレクチャー

リエゾンカンファ 総合診療科入院患者の退院に向けての目標設定、艦長調整を多職種で検討するカンファレンス

TMEC クリニカルクラークシップ医学生による担当症例についての発表会



TMEC

◆ 初期臨床研修（総合診療科研修）

2019年4月時点で、公立玉名中央病院は、基幹型研修プログラムに3名の研修医がマッチし、基幹型2年次3名と熊本大学病院のプログラムの協力医療施設として6名、国立熊本医療センタープライマリケアコースの協力型として2名、計14名の初期臨床研修医(研修医)を受け入れました。玉名教育拠点は、総合診療科研修および地域医療研修を担当し、指導を行いました。

まず総合診療科研修で研修医は、外来・入院・訪問診療を研修し、自らが診療の始めから終わりまでを一貫して実践し、研修医中心の参加型研修を実践しました。研修医は患者を「主治医」として担当し、指導医との連携の中で中心的な役割を担います。この事で、研修医からは「自分の患者」という意識が芽生え、責任感と医師になったことの実感が得られたとの評価を得ています。

課題としては、初期臨床研修医の期間は、月ごとの成長が著しく、研修時期に応じて研修医の臨床能力に大きな差が生じ、担当患者数のみならず、患者の重症度や疾患の種類で、研修負担の調整が困難であること、指導医師の業務の負担が大きくなってしまっていることが挙げられます。



午後回診風景
医学生、初期研修医、専攻医
総合診療スタッフ



新患カンファレンス



朝の研修医プレゼン研修

◆ 総合診療専門医（専攻医）研修

玉名教育拠点および公立玉名中央病院では熊本大学病院 総合診療専門医研修プログラムの「総合診療II」、「内科研修」、「小児科研修」および「救急研修」を実施しており、2019年度は3名の2年次の専攻医が研修しました。彼らは自らの診療研修にとどまらず、初期研修医、医学生の教育の一端を担っています。この為、病院機能もかなりの部分で専攻医に依存する部分も多くなっており、専攻医の負担を軽減するシステムの構築と総合診療専門医研修プログラムへのリクルートは重要になっています

◆ 講演会・レクチャー

玉名拠点では様々な職種が参加するバライティー富む勉強の機会が設けられています。



心不全緩和のエッセンス



玉名塾：Dr.Ramar レクチャー



お・と・なの臨床倫理

◆ モーニングレクチャー

日程	担当：講義内容	日程	担当：講義内容
4月2日	総合診療科：円滑なコミュニケーション	9月12日	腎臓内科：腎不全、急性腎障害
4月9日	総合診療科：コンビニ受診	9月17日	摂食嚥下障害認定看護師：摂食嚥下障害看護
4月16日	安成医院：在宅医療	9月19日	腎臓内科：輸液について
4月23日	安成医院：キク、コミュニケーション	9月24日	麻酔科：麻酔が原因の心停止
4月30日	診療情報管理室：診療記録	10月8日	皮膚科：火傷
5月7日	感染管理認定看護師：感染管理	10月15日	皮膚科：中毒疹
5月14日	診療情報管理室：DPC	10月29日	泌尿器科：導尿・尿道カテーテルの手技
5月21日	救急看護認定看護師：当院の救急医療	11月5日	泌尿器科：救急外来で泌尿器科疾患らしき人が来たら…
5月28日	医療安全室：医療安全管理	11月13日	消化器内科：H. pylori除菌治療
6月4日	MSW：医療費について	11月20日	消化器内科：急性胆管炎・急性胆嚢炎
6月11日	MSW：地域の連携先	11月26日	小児科：小児救急・CPAへの対応
6月18日	理学療法：リハビリテーションと理学療法	12月3日	小児科：熱性痙攣の対応
6月25日	理学療法：言語聴覚士の仕事	12月10日	整形外科：骨折一般
7月2日	呼吸器内科：肺がんの疫学	12月17日	整形外科：ギプスの巻き方
7月9日	呼吸器内科：人工呼吸の目標	12月24日	病理診断科：胃印環細胞様変化1
7月16日	糖尿内分泌科：生活習慣病の治療	1月7日	病理診断科：胃印環細胞様変化2
7月23日	糖尿内分泌科：ICUにおける血糖管理、内分泌疾患のエマージェンシー	1月14日	血液内科：貧血と血小板減少
7月30日	糖尿病認定看護師：糖尿病看護について	1月26日	放射線科：急性腹症の画像
8月6日	循環器内科：AMI治療、心電図1	2月4日	放射線科：胸部単純写真の読影
8月13日	循環器内科：AMI治療、心電図2	2月18日	緩和ケア認定看護師：緩和ケア看護の現状
8月21日	健診センター：健診センターの紹介	2月25日	がん化学療法看護認定看護師：がん化学療法看護の現状
8月27日	健診センター：行動変容を目指した保健指導	3月3日	薬剤部：薬剤部の業務紹介
9月4日	外科：胸部外傷	3月10日	薬剤部：薬剤師と医師との協働・連携
9月5日	腎臓内科：血液ガス・電解質異常	3月17日	認知症看護認定看護師：認知症看護の現状
9月11日	外科：腹部外傷		

モーニングレクチャーとは…

* 各診療科、部署のエキスパートから実践に即した知識や技術を学ぶ場です。

* 指導は医師に限らず、様々な職種のスタッフに協力していただき、幅広いテーマの研修が可能となっています。



II 診療

公立玉名中央病院にて、総合診療科での外来および病棟診療を行なっています。また、同院の他診療科からの相談や救急診療にも携わりました。

総合診療科での診療に当たり、玉名教育拠点に常駐する教員2名、スタッフ医師（家庭医療専門医）の他、研修医、地域医療・総合診療実践学寄附講座の教員も外来診療、救急医療に携わりました。

公立玉名中央病院 総合診療科

月	火	水	木	金
中村	武末	武末	松井	中村
小山	小山	中村	(小山)	小山
	田宮	田宮	田宮	

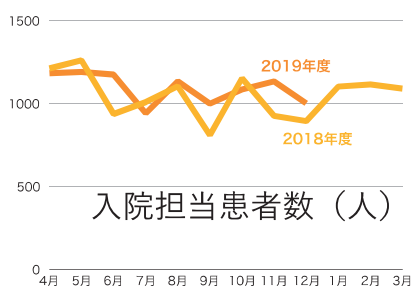
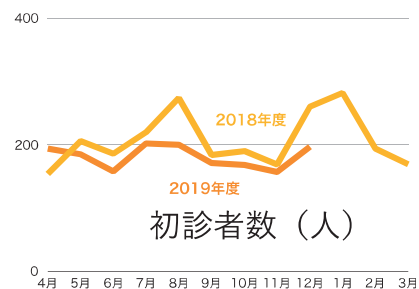
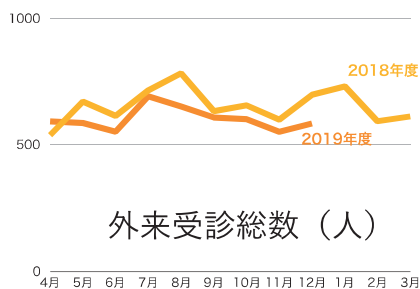
III 年間診療報告

玉名教育拠点開設から5年目となりますが、医学生、初期研修医、専攻医および地域医療・総合診療実践学寄附講座スタッフがチームを形成し、総合診療科外来として外来診療および他診療科からのコンサルト対応を行うとともに、2017年度から水曜日を除き、連日、日勤帯の救急外来も担っています。

今年度は総合診療科の専攻医が減少したため、診療の中心は新たに加わった2名の家庭医療専門医のスタッフとなっています。彼らへの負担は極めて大きいものとなっておりますが、彼らの活躍により下の図が示すごとく、総合診療科への受診総数、初診者数および入院担当患者数は気候や感染症の流行による増減は見られるものの、今年度も同様のレベルを維持できています。何より彼らの真摯な態度は周辺地域への総合診療科の存在を印象付けるとともに、当院に実習や研修に訪れた学生、研修医及び専攻医の身近なロールモデルとなっています。

救急診療においては2017年より中心を担うようになった救急外来での受け入れ救急車台数は増加し、特筆すべきは不応需率が明らかに低下していることです。救急の現場で「断らない医療」が実践されつつあります。救急医療の充実には地域に信頼される医療機関になるためには必須です。総合診療科が公立玉名中央病院の救急体制を支えるのは最終ゴールではなく、今後、病院をあげての救急体制構築が目指すべきものだと考えます。

このように玉名中央病院での診療において総合診療科の役割は拡大しています。



天草教育拠点

1. 活動概要

天草教育拠点は、多くの方々のご尽力により、熊本大学病院地域医療・総合診療実践学寄附講座の2番目の学外教育拠点として、玉名教育拠点に引き続き2019年4月に設置されました。2019年度は2名の常駐寄附講座教員と後期研修の専攻医1名でスタートしています。

設置の目標としては、①総合診療科としての天草地域の特性を踏まえた形での医療貢献②地域医療を含めた卒前卒後教育の充実、です。

医療貢献という点では、天草地域医療センター総合診療科として、おもに2次医療機関としての病院総合医の役割を担っています。天草地域の小病院、クリニックなどから紹介していただき、主に紹介外来としての一般外来を毎日行っています。また、入院診療、救急外来、少数ですが在宅医療も行っています。

教育に関しては、2019年度はクリニカルクラークシップの受け入れや初期研修医の受け入れがシステム上でできておらず、質、量ともにまだまだの部分があります。地域医療実習の学生の一部、早期臨床体験実習の学生には、実臨床での実践的な教育、地域の特性を理解しつつ目の前の医療に落とし込む地域医療の教育などを、行ってきました。

今後、天草地域医療センター総合診療科に対して、特に地域医療機関や院内から求められることは、主に病院総合医としての役割だと思えます。今後も地域医療機関や院内のニーズに応えつつ、しかしそれだけではなく、もっと広い地域のニーズを抽出しながら、天草地域の医療、教育の発展のため、ただの病院総合医にとどまらない貢献を、組織としてひとつひとつ実践していきたいと考えています。



2. 年間活動実績

- ・ 毎週木曜午後 院内ポートフォリオ勉強会
- ・ 毎月2回 合同WEBカンファレンス
- ・ 8月22日 院内学会 発表
- ・ 12月14日 院内学会 発表

3. 活動報告

I 教育活動

◆ 特別臨床実習

熊本大学医学部では、1ターム3週間の特別臨床実習（クリニカルクラークシップ）を実施しており、地域医療実習として天草地域医療センターに1ターム1～2名の5年生が実習に来ています。このうち、実習中は1週間毎に各科を選択できるため、総合診療科を選択した学生を担当いたしました。多くは1週間の選択のみでしたが、1名は3週間すべて総合診療科を選択した学生がいました。

内容としては、入院患者の担当を割り当て、指導医と直接相談しながら医療チームの一員として積極的な診療参加を促しました。また、毎朝のカンファレンスでプレゼンテーションを行いました。特に3週間の期間があった学生は、入院から退院までの流れ、退院後の生活についての配慮すべきことなどまで、一連の流れを学ぶことができたと考えます。また、外来、救急では、初診患者の病歴や身体所見などから検査計画や診断、治療につなげるトレーニングを担当医とともに行いました。さらに、天草の地域性も考慮し、通院にかかる時間や交通機関などの影響、普段の生活の状況把握、保健福祉なども含めた地域リソースの把握の重要性など、総合診療学的な内容も症例から直接的に学ぶ機会を設けました。

今後は、より多くの学生が総合診療科での実習（総合診療分野でも、地域医療分野でも）ができるよう、大学での体制を作っていただけていただけたいことを大いに期待しています。



◆ 早期臨床体験実習

熊本大学医学部では、早期臨床体験実習として今年から、3年生に1週間の日程で各病院での実習が行われました。天草地域医療センターにも3名の学生が実習に来ましたが、熊本大学からの移動時間の問題もあり、天草地域医療センターでの実際の実習期間は3日半でした。すべて総合診療科で担当しました。内容としては、認知症患者との雑談、外来患者へのインタビュー、リハビリテーションの参加、訪問看護の参加などを行いました。天草地域をベースに、地域の特徴を理解、把握したうえで診療を行うことの重要性を認識してもらえたと思います。

◆ 初期臨床研修医

天草地域医療センターの初期臨床研修医は、今年度は1月までの時点で総合診療科の選択がなく、直接的な指導はほぼ行えておりません。今後は、初期研修医自身が総合診療科ローテートを選択できるような体制、充実した教育を行える環境を作っていくことが課題です。

地域医療研修として、1か月のみ他院から初期研修医が研修を行いました。指導医と連携しながら入院患者を担当し、医療チームの一員として積極的に診療に参加しました。また、地域志向、患者中心の医療、家族志向などの総合診療学的な内容も症例をもとに学びました。

今後は、より多くの初期研修医が総合診療科をローテートできる体制を作っていただけることを大いに期待しています。

◆ 総合診療後期研修医

総合診療研修プログラムのうち「総合診療Ⅱ」を担当しています。専攻医1名が在籍しています。本人のニーズ、診療能力に合わせた診療内容を指導医が調整しながら行っています。他科と協力しながら、呼吸器内科研修、超音波研修、上部消化管内視鏡研修なども取り入れています。また、週に1回、河浦病院からもう1名、専攻医が研修に来ています。その日にあわせて、ポートフォリオ勉強会を毎週行っています。しかし、指導医の外来担当日も重なっていることもあり、診療優先で勉強会を行えない日もありました。

今後も、玉名、大学とも連携しつつ、熊本全体で専攻医の充実した指導を行える体制を作っていきたいと考えています。

II 診療

天草地域医療センター 総合診療科

	月	火	水	木	金
高杉	外来	救急	外来	救急	外来
鶴田	救急	外来	救急	外来	

III 年間診療報告

今年度から天草教育拠点の開設、天草地域医療センター総合診療科が常勤になり、平日は毎日外来を行っています。地域の先生方からは、「何科に紹介すればいいか悩む症例を紹介しやすくなった。」

「原因のわからない症状でも相談できて助かる。」等のありがたい評価もいただいています。当院の総合診療科は、二次病院における病院総合医の役割として、

- ・医師会の先生方と密な連携をとり、天草の地域医療へ貢献をする事
- ・院内で専門医の負担軽減を目指しつつ院内連携を強化する事

が重要な役割だと考えています。

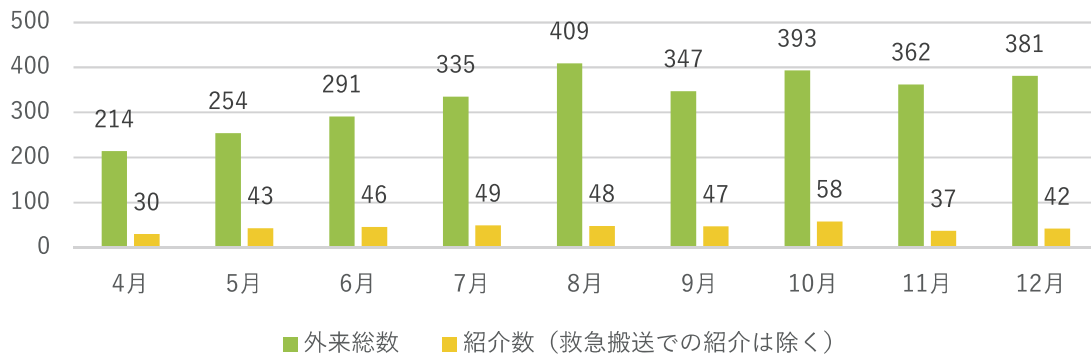
外来・入院で診る疾患としても多分野に及び、悪性疾患（悪性リンパ腫、白血病、胃癌、大腸癌、肝細

胞癌、管内胆管癌、尿管癌、肺癌反回神経麻痺など、各種疾患の診断や各科への紹介、末期患者の緩和治療など）、感染症（EBV伝染性単核球症、百日咳、マイコプラズマ、カポジ水痘様発疹症、深在性真菌症、日本紅斑熱、椎体炎、腸腰筋膿瘍、感染性心内膜炎など）、膠原病関連（関節リウマチ、シェーグレン症候群、ベーチェット病、リウマチ性多発筋痛症、巨細胞性動脈炎、ANCA関連血管炎など）、運動器疾患（圧迫骨折、各種骨折や外傷、解離性運動麻痺など神経障害など）、ほかにも悪性貧血、ネフローゼ症候群、気胸、乳糖不耐症、めまい症、認知症、アナフィラキシーなどがあります。それぞれ、外来や入院で診断をつけて適切な科に紹介したり、当院で入院治療や外来フォローアップを行ったりしています。

また、現在当科が行っている取り組みの一つとして、ST、管理栄養士と連携し、摂食嚥下チームの充実化を行っています。昨年度までは行われていなかった嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査での嚥下評価を行い、患者様にあった摂食嚥下のリハビリテーション計画、食支援を実践出来るように取り組んでいます。

教育拠点

外来患者数（救急搬送は除く）



総合診療科 入院数

